

# 新 地場企業 群像

## サンセイジェネリック (福山市)

### 半導体用電源の最先端

ロン・テクノロジーなど品。頭脳となる中央演算処理装置(CPU)の搭載が、他社製品は1個

のところで最大52個以上。1千万分の1秒レベルで制御できるようにし、微細化が進む加工に対応させている。

社員9割は技術者で、開発に特化する。「3〜5年先のトレンドを読み、必要となる製品を先行して開発している。担っているのは業界の最先端」。自らも工学博士の杉本社長は胸を張る。生

産は地域の企業に委託。産業が集中しており、相談しやすいのが利点という。自社では、試作品作りや完成品の調整を行う。それも人工知能(AI)の活用で生産性向上を進めている。

ソフトウェア更新やCPU交換により機能を向上させるサービスにも力を入れる。「顧客が求めるのは新しい機械ではなく、新しい機能」。生産量は年約2千台と多くはないが、コストがからまないアップデートの展開により高い利益率につなげている。

医療機器や液晶パネルの製造装置も手がける。

今後は、AIに使う半導体の製造装置向けに重点を置く。「市場規模は爆発的に伸びる。世界のトップメーカーに採用される会社を目指したい」

(筒井晴信)



試作した高周波電源を調整するサンセイジェネリックのR&Dセンター

半導体を作る装置に組み込まれる高周波電源を開発する。電源を搭載した装置は、シリコンに微細な回路を刻む。世界で生産されるDRAM(記憶保持動作が必要な随時書き込み読み出しメモリ)とフラッシュメモリの3割に関わる。創業時は衣料品を作っていた。だが米国の半導体関連企業に勤めていた杉本一弘社長が後を継いで、事業転換。今は半導体受託生産の世界最大手、台湾積体回路製造(TSMC)や米国のマイク

《会社概要》本社は福山市新涯町。1984年に三誠産業を設立し、95年から半導体関連事業を手がける。2012年に現在の社名になった。福山市と尾道市に開発拠点がある。24年3月期の売上高は12億1400万円。社員49人。